

# 総合計画／実施計画書 兼事務事業評価シート

事業期間 H21 ～ H23

担当部局	部局名	建設部
	課室名	建設課

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）		
基本施策ID	基本施策名	
2 - 1 - 2	自然と調和した美しいまちを育てる	
重点施策ID	重点施策名	
2 - 1 - 2 - 3	都市計画区域の見直し	

2. 事業名等			
事業名	都市計画の見直し	事業区分	② ①新規 ②継続 ③その他 ( )
細事業名		実施形態	① ①毎年 ②隔年 ③その他 ( )
事業主体	市		① ①直営 ②指定管理 ③委託
事業種別	① ①自治事務 ②法定受託事務		④その他 ( )
実施期間	平成 19 年度 ～ 平成 24 年度	根拠法規	都市計画法

3. 事業の内容等			
事業の背景 都市計画決定から20年以上経過し、未着手となっている都市施設について、計画施設の廃止を含めた見直しを行うよう都市計画指針が改正されたことに伴い、都市計画区域を指定している県下の市町は見直しを行うよう作業を行っている。 また、豊後大野市では都市計画マスタープランを策定していないため、県より策定するよう指導されているところである。	補助事業	名称	
		補助率	国 1/ 県 1/ その他 1/
	起債の種類	① ② ③	

事業の目的及び対象		事業概要	
【目的】 都市施設については、長期未着手となっている路線を含め、市内の道路体系のあり方や個別路線の必要性、長期的な整備方針などについて検証する。また、市内の土地利用現況を調査し、環境の変化に合わせた具体的な土地利用方針の検討を行い、快適で秩序ある市域となる計画策定を行う。	【対象】 市民、地権者	都市計画の見直し ・ 都市施設（道路・公園）の見直し（H19～H22） ・ 都市計画区域及び用途地域見直し（H19～H22） ・ 都市計画マスタープラン策定（H21～23） ・ 都市計画図修正業務（H22～H23） ・ 景観計画の策定（H24）	前年度の評価 E 維持
		評価結果に基づき見直した内容	

4. 予算・決算の状況 (単位：千円)								
財源内訳		H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24～
予算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源計		15,015		2,457	4,904	2,425	
決算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源計		15,015		2,457	4,904	2,425	

5. 実績及び達成目標等			
過去3年間の事業実績と課題			
平成18年度	平成19年度	平成20年度	課題
【実績】 都市計画用途地域及び都市施設整備の見直し	【実績】 都市計画用途地域及び都市施設整備の見直し業務（調査設計委託）	【実績】 都市計画用途地域及び都市施設整備の見直しについて県との協議	関係機関との調整

達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値							
活動指標	座談会開催数						
効率指標	-						
成果指標	計画策定進捗率						
	単位 %						
年度	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	備考
種別				進捗率	進捗率	進捗率	進捗率
目標値			50	70	80	90	
実績値			50	60			
達成率			100.0%	85.7%			
備考							

# 総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

評価対象年度 H20 年度

評価実施年度 H21 年度

担当部局	部局名	建設部
	課室名	建設課

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	市として、都市計画区域の将来像を示すために必要である。				
行政の 与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	5	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	都市計画法により、市町村が定めることとなっているため。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	市職員だけでは不足する経験や技術などを補うため、専門コンサルタント等との連携や専門知識を活用しているため。				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	都市計画の策定は、予定どおり進捗しているため。				
事業の 算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	3	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	都市計画マスタープランを平成21年度から3年間に渡り策定する方針としている。(債務負担行為済み。)				
人 体 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	兼任業務で事業を行っており、現状の人員以上の削減が困難なため。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	計画的に事業を進めており、現在の事務事業により、目標達成が可能であるため。				
<b>その他、特記事項</b> <p>この事業は、産業、自然環境など豊後大野市のまちづくり全体に影響を及ぼすため、成果を上げるためには、生活者の声や土地利用の実態と課題を的確に把握することが重要といえる。今後も、各方面との連携をとりながら進めていくことが必要である。</p> <p>また、都市計画マスタープラン策定業務は単年度事業で考えていたが、3ヶ年に渡る事業に見直した。</p>					
部 長	課 長	班 長	担 当 者		
			内線 E-mail		